

# 地域づくり協議会だより

第4号

平成24年 3月22日発行

発行: 奥町連区地域づくり協議会

「地域づくり協議会」が発足して約1年になり、「安心・安全をつくる」「ふれあいをつくる」「元気をつくる」「広報」の各部会も話し合いを重ね、それぞれに課題がみえるようになってきました。そこで、今回は各部会の現況を皆様に報告させていただきます。



## 安心・安全をつくる会

地域づくり協議会とは？から始まり、部会員が協議会の意義を少しずつ理解し、やっと動き出したばかりの安心安全部会です。地域の人ができるかどうすれば今以上に良い環境(安心・安全)で過ごす事ができるかを話し合い、まずは防犯・防災・交通安全について、現況がどのようになっているかを知ることから始めようとアンケートを作成し、町会長会に協力をお願いして回答を頂いています。そのアンケート結果を基に、今後の活動をどう具現化しようかと検討しています。また、その折には地域の皆さんの協力を頂きながら、共生できる住みよい街づくりに貢献できたという思いで部会員一同が活動しています。(部会長・大橋)



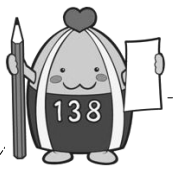
## ふれあいをつくる会

ふれあいの部会として、どんな活動をしていくか部会員で話し合いを続けてまいりました。そしてその中でまず、老人クラブについての問題を取り上げることとしました。老人クラブは、親睦活動・教養講座・社会奉仕活動・スポーツ活動等、高齢者の生涯活動の場として意義ある活動をされています。ここ数年間に、二つの老人クラブが解散をいたしました。この二つのクラブは、クラブ長の後継者がいないことが主な解散の理由でした。「ふれあい部会」では、この二つのクラブに復活をして頂きたく、前任のクラブ長さんと町会長さんに、再度の復活についてご理解賜りたく、近々お願いに参上する段階にまでこぎ着けております。(部会長・坂屋)



## 元気をつくる会

私たちの部会では、町会長会・公民館をはじめ、子供が関わる諸団体の代表の方々と熱のこもった話し合いを行い、各団体の内容を相互で把握し、各団体間の繋がりの強化を図っております。将来かならず訪れる少子高齢化社会に向けて、「地域と住民が元気になるには」と題しての話し合いでは、「お祭り」「運動会」「子供の夢づくり」「野外料理」等々のキーワードが出されております。そして地域住民の生の声を集める事も検討されております。まだ具体的な形にはなってませんが、「まず、出来ることから始めよう」という事で、歩みは遅いですが着実に進めて行きたいと考えてます。(部会長・今枝)



## 広報部会

広報は各部会からの情報を、皆さんにお知らせしていく作業が中心となります。  
この1年、色んな情報を集約して「地域づくり協議会」のあり方や方向性が見えてきました。

まず、現在進行しつつある希薄な人間関係による「無関心」が全年齢層にわたり増えており、近所で何が起きても知らんぷりの状況が先々予想されます。  
その対策として、今では敬遠されつつある「となり組」的な一体感のある連携組織が、今後は重要なキーワードになりそうです。そういった意味でも、連携をとる方策を住民参加で話し合っていていくのが、この協議会だと思います。  
具体的な方法としては、現在行っている行事等を変化させたり合体させたり、まず出来ることから徐々に進めることで、皆の負担も少なくなり理解と協力も得られそうな気がします。

単純に「奥町の将来を今より悪くさせない為にどうするか」を考えれば良いということ。  
急がず慌てずじっくりと、皆さんで意見を出しあって話し合う事が最重要だと思います。  
(部会長・春日井)

## 資源回収にご理解をお願いします

町内での資源回収活動に協力しましょう。  
各町内で毎月行われている資源回収に、皆さんは積極的に出されていますか？  
皆さんから出された回収資源の量によって、一宮市より奥町連区へ還付金が出されるシステムになっているんです。(22年度実績で約600万円が還付されました)

この還付金は、奥町で活動する色々な団体の活動資金として利用されています。  
ですから、活動資金が増えれば、担当各団体が行事等の活動のボリュームを増やすことも出来て、結果として地元の皆さんに、より良い内容の行事等を提供する事が可能です。

こうした活動に協力することで、町内での連携を深めるきっかけにもなるのでは。

